

浜名湖花博の観光資源としての価値 阿部研究室 A21AB050 加藤夕依七

01 背景・目的

背景：

2024年4月15日から58日間、静岡県浜松市にて10年ぶりで3回目の開催となる「浜名湖花博2024」が開催された【写真1】。

浜名湖花博は2004年から10年ごとに開催され、花や植物をテーマにした展示やイベントが行われている。

集客は目標の95万人を超える100万人に達したが、来場者数は開催ごとに減少しており、観光イベントとしての停滞化が起きているのではないかと考えた【図2】。

目的：

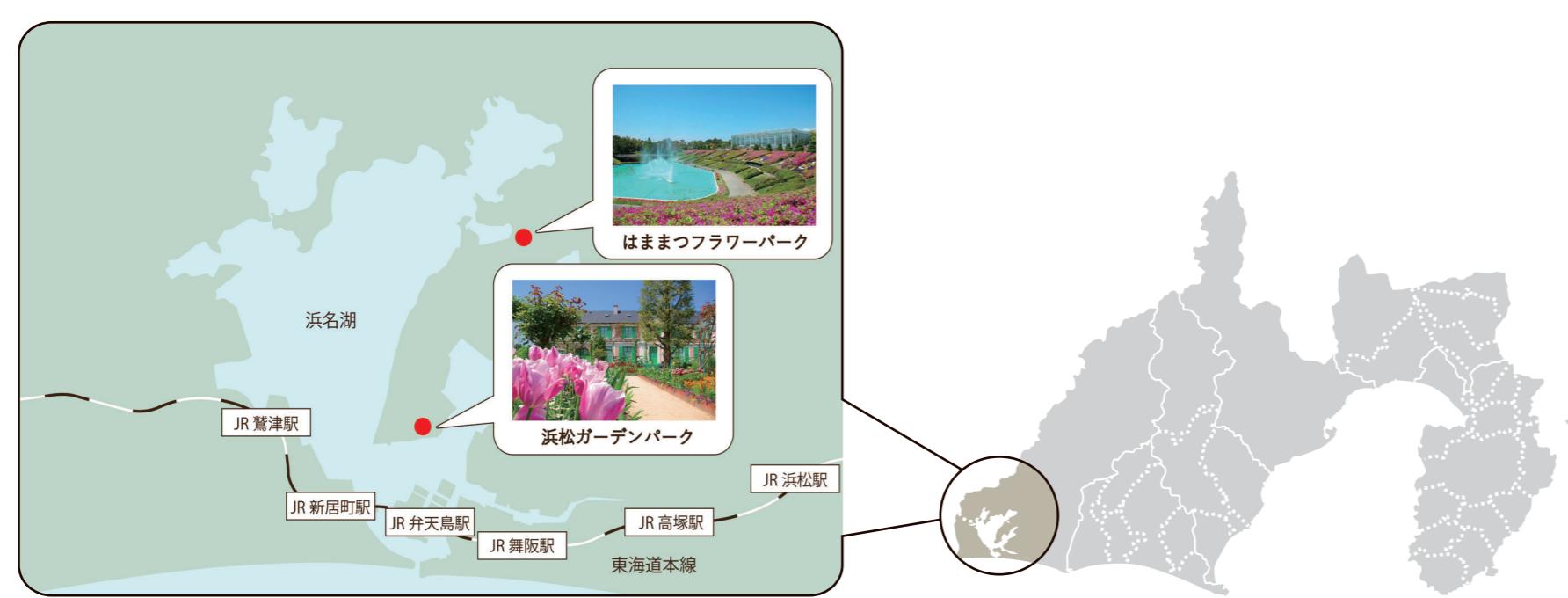
そこで本研究は、浜名湖花博が10年おきに継続して開催する理由を明らかにすることを目的とする。



【写真1】浜名湖花博2024 はままつフラワーパーク

05 浜名湖花博の開催概要

浜名湖花博のメイン会場は静岡の都市公園「浜名湖ガーデンパーク」と植物園の「はままつフラワーパーク」の2会場で位置関係は以下のようになっている。



【図1】浜名湖花博の会場

3回のメイン会場、開催期間、入場料金は以下のようになっている。

2004 しづおか国際園芸博覧会	2014 浜名湖花博	2024 浜名湖花博
浜名湖ガーデンパーク 4/8~10/11 (187日間) 2,900円	浜名湖ガーデンパーク 3/21~6/15 (87日間) 800円	浜名湖ガーデンパーク 4/6~6/2 (58日間) 800円
はままつフラワーパーク 3/21~6/15 (86日間) 800円	はままつフラワーパーク 3/23~6/16 (86日間) 1,000円	

【図2】浜名湖花博の開催概要

- 会場は浜名湖ガーデンパーク(GP)とはままつフラワーパーク(FP)の2会場。
- 第1回はGPのみ、第2回からGPとFPの2会場で同時開催。
- 第1回が第2、3回に比べ、3.5倍ほど入場料が高い。
- 開催期間は第1回が半年、第2回は3か月、第3回はGP2か月でFPが3か月。

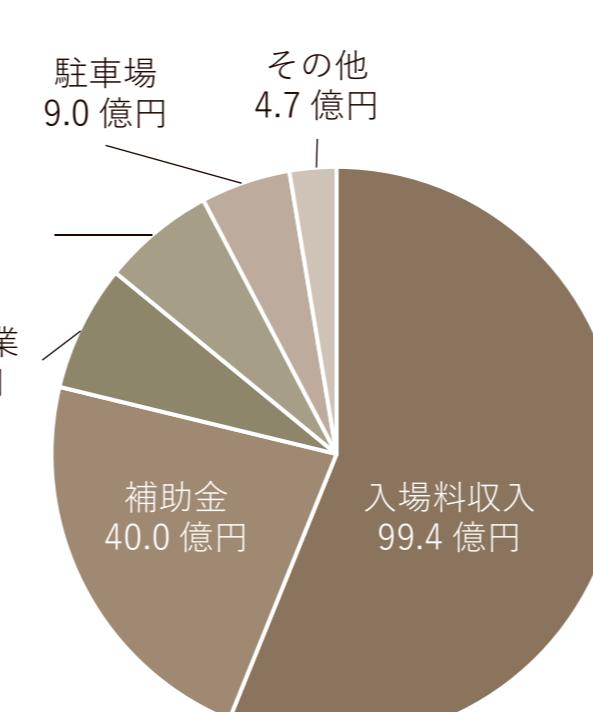
開催期間が長いと維持費等の事業費がかかるため、期間が長いほど入場料が高くなっていると考えられる。

08 浜名湖花博の経済効果

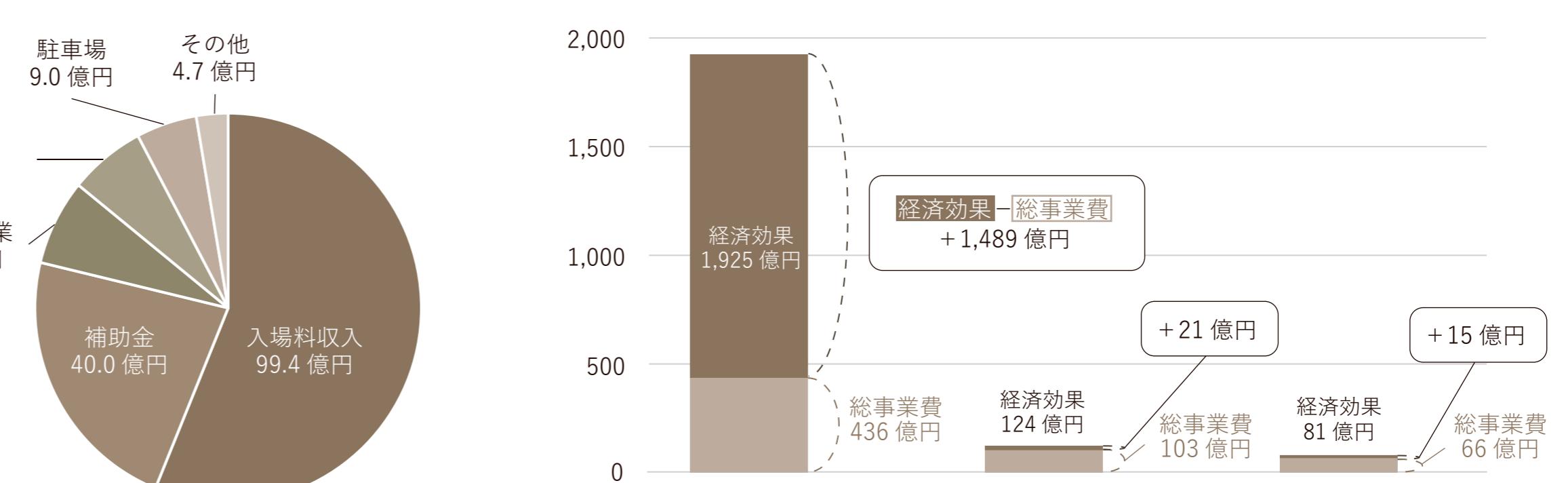
浜名湖花博の経済効果を比較した。また経済効果において重要な項目は何か明らかにするため、事業収支の内訳も調査した。

- 第1回の経済効果は第2回、3回の20倍近い。
- 経済効果は3回とも事業費を上回っている。
- 事業収入では、入場料収入が大きな割合を占めている。

- 経済効果から事業費を引くと、3回とも利益は取れている。
- 入場料は主要な収益源の一つとなっているため収入に直結する来場者数は重要だといえる。



【図6】浜名湖花博2004 収入(見込)



【図7】浜名湖花博2024 はままつフラワーパーク

02 方法

文献調査

『CiNii Research - 国立情報学研究所』で既往研究の抽出を行った。静岡県内の郷土資料を多く所蔵する『浜松市立中央図書館郷土資料室』で文献調査を行った。

会場の調査

浜名湖花博開催過去3回の当時の写真や案内資料を収集し、会場の変化を比較した。

浜名湖花博2024会場の現地調査を合計4回行った。

全国の花博の一覧表作成、比較

主にwebサイトより収集した情報から全国の花博(全国都市緑化フェアが対象)の開催概要一覧表を作成し、読み取り調査をした。

03 論文構成

1. はじめに

1-1. 背景・目的

1-2. 方法

1-3. 既往研究

2. 浜名湖花博について

2-1. 浜名湖花博とは

2-2. 会場の変化

2-3. 事業収支

2-4. 花博被承事業

2-5. 集客の変化

2-6. 現地調査

2-7. 考察

3. 開催背景にある緑化フェアについて

3-1. 全国都市緑化フェアとは

3-2. 緑化フェア開催地一覧表作成

3-3. 来場者数の多い緑化フェアの傾向

3-4. 緑化フェアを複数回開催している都市の傾向

3-5. 考察

4. 浜名湖周辺の観光と花卉産業

4-1. 浜松市の観光状況

4-2. 静岡県の花卉産業

4-3. 考察

5. おわりに

参考文献／謝辞・あとがき

04 既往研究

論文検索エンジン CiNii Research で以下5つの検索ワードを検索した。
「浜名湖花博」「浜名湖」「花博」「博覧会」「全国都市緑化フェア」

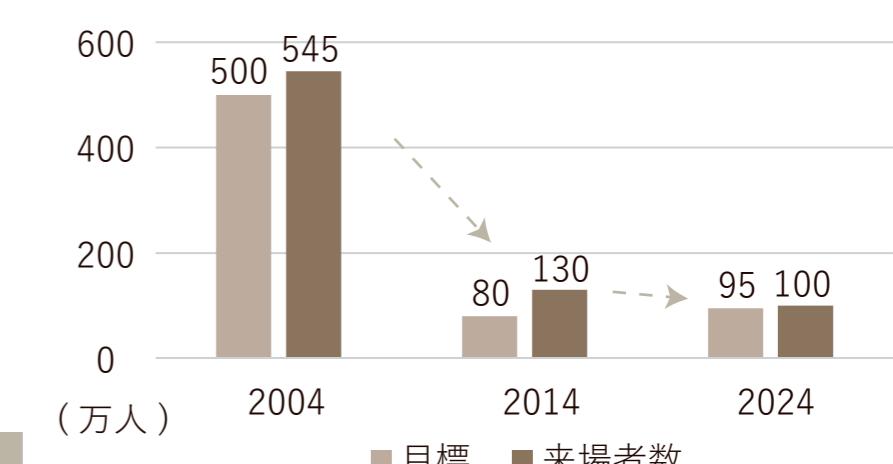
- 市原猛志「観光資源としてのくまもと花博:二度の都市緑化フェアの比較に基づくイベント機能の変遷と市街地の活用」『熊本学園商学論集』卷27 (2), p. 1-22、熊本学園大学商学会 (2023-03-28)
- 井原 緑「大阪国際花と緑の博覧会を中心とした国際園芸博覧会に伴う土地利用変化とその背景」『ランドスケープ研究:日本造園学会会誌』卷76 (5), p. 655-660、公益社団法人日本造園学会 (2023-03)

- 1回目の浜名湖花博2004に焦点を当てた研究が多い。
- ランドスケープやガーデンソーリズムの研究が抽出されたが、浜名湖花博継続の理由や意義についての研究はない。
- 上記2件は、熊本花博と大阪花博の開催内容の変化やレガシーについての研究で、本研究を進める際の参考とした。

06 浜名湖花博の来場者数

3回にわたる浜名湖花博の来場者数の変位をグラフで整理した。

- 第1回は第2、3回の約5倍の来場者数。
- 来場者数は減少の傾向にある。
- 目標数は3回とも超えている。
- 目標の上回り方は第2回が一番大きい。



来場者数は減少の傾向があり、観光イベントとしての停滞が考えられる。

07 浜名湖花博の1日の平均来場者数

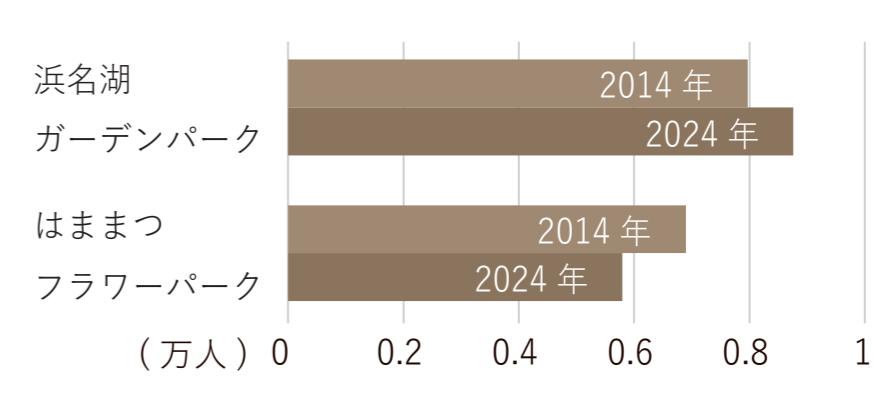
3回で開催期間に差があるため、来場者数にも差が出ているのではないかと考えた。そこで、1日の平均来場者数で比較した。

- ガーデンパークでは1日の平均来場者数が増加している。
- フラワーパークでは減少している。
- 第2回と3回の差は2会場とも小さい。



会場ごとでも1日の平均来場者数を比較した。第1回はガーデンパークのみでの開催のため、第2回と3回で比較している。

- 第1回は第2、3回の約2倍。
- 第2回と3回の差は小さい。
- 1日の平均来場者数は減少の傾向にある。



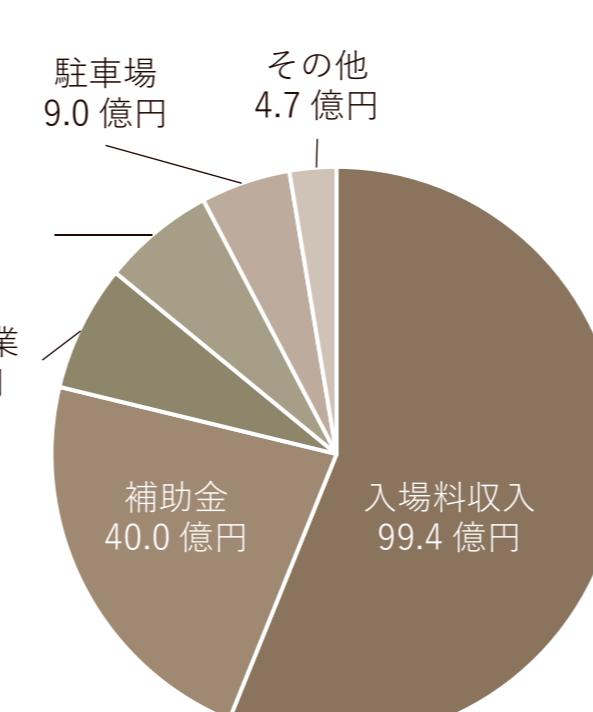
第2回と第3回の1日の平均来場者数はあまり変わらないことから、来場者数に差が出るのは開催期間の長さが影響していると考えられる。

08 浜名湖花博の経済効果

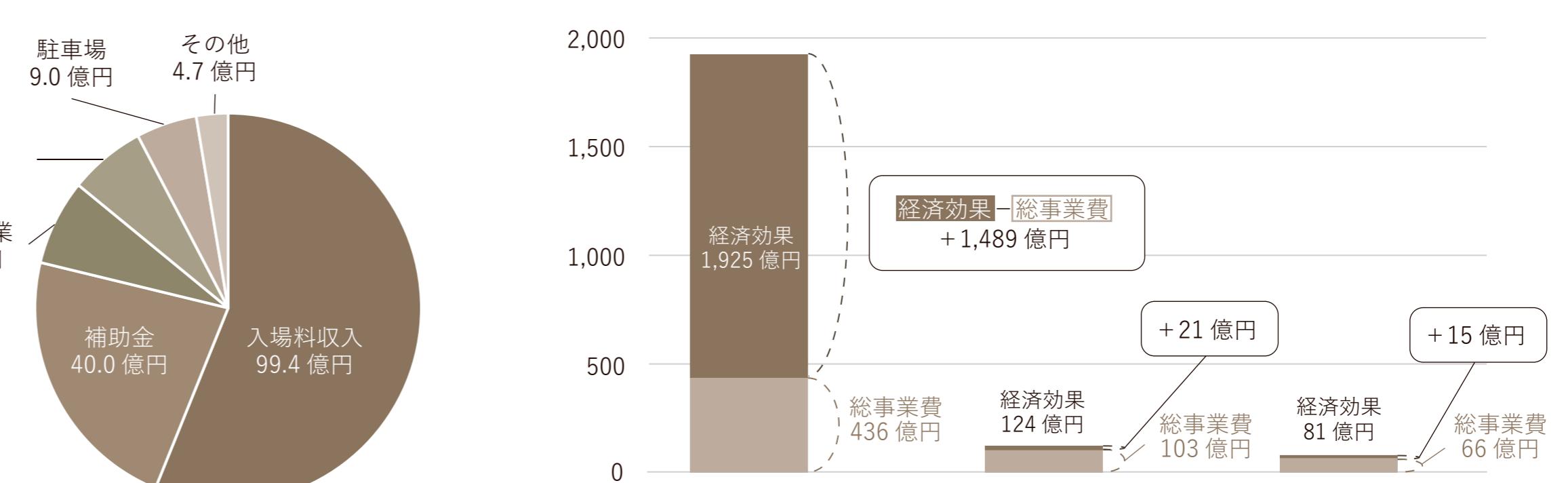
浜名湖花博の経済効果を比較した。また経済効果において重要な項目は何か明らかにするため、事業収支の内訳も調査した。

- 第1回の経済効果は第2回、3回の20倍近い。
- 経済効果は3回とも事業費を上回っている。
- 事業収入では、入場料収入が大きな割合を占めている。

- 経済効果から事業費を引くと、3回とも利益は取れている。
- 入場料は主要な収益源の一つとなっているため収入に直結する来場者数は重要だといえる。



【図6】浜名湖花博2004 収入(見込)



【図7】浜名湖花博2024 はままつフラワーパーク

09 来場者数の多い花博の共通点

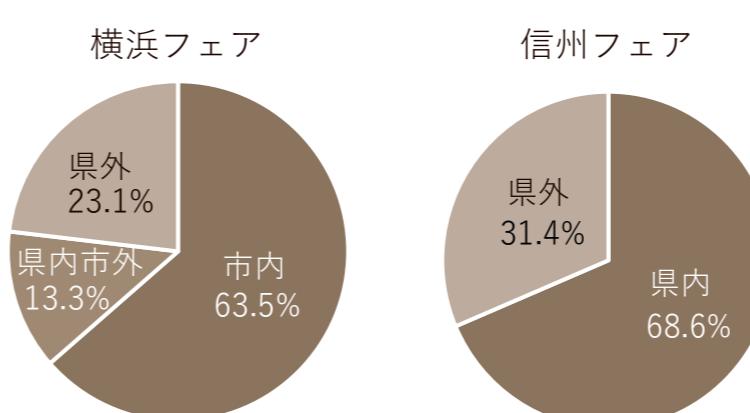
全国の花博（全国都市緑化フェア）を対象に開催地、入場料、開催期間の項目で来場者が多い花博に共通点があるか調べた。

1位 ガーデンネックレス横浜 2017	600万人	無料	30日間	3/25(金)～6/4(土)
2位 モアグリーン東京	550万人	無料	37日間	10/5(木)～11/10(土)
3位 しづおか国際園芸博覧会	545万人	2,900円	187日間	4/8(木)～10/11(月・祝)
4位 TOKYO GREEN2012	516万人	無料	30日間	9/29(土)～10/28(日)
5位 花と緑のあいち 2015	321万人	—	58日間	9/12(土)～11/8(日)

【図8】全国都市緑化フェアの来場者数ランキング

- ・都市や中枢都市などで開催されている。
- ・入場料を取らないほうが来場者は多い。(ただし無料開放のため、正確な数が取れているか不明)
- ・開催の季節と来場者数に関係性はみられない。
- ・開催期間は1～2ヶ月

来場者は開催地の近隣からくるのか、遠くからくるのか来場者アンケートをもとに調査した。なお、アンケート結果が開示されておりかつ、来場者数の多いフェアと数少ないフェアで差があるか比較するために来場者が多かった横浜フェアと少なかった信州フェアを対象にした。



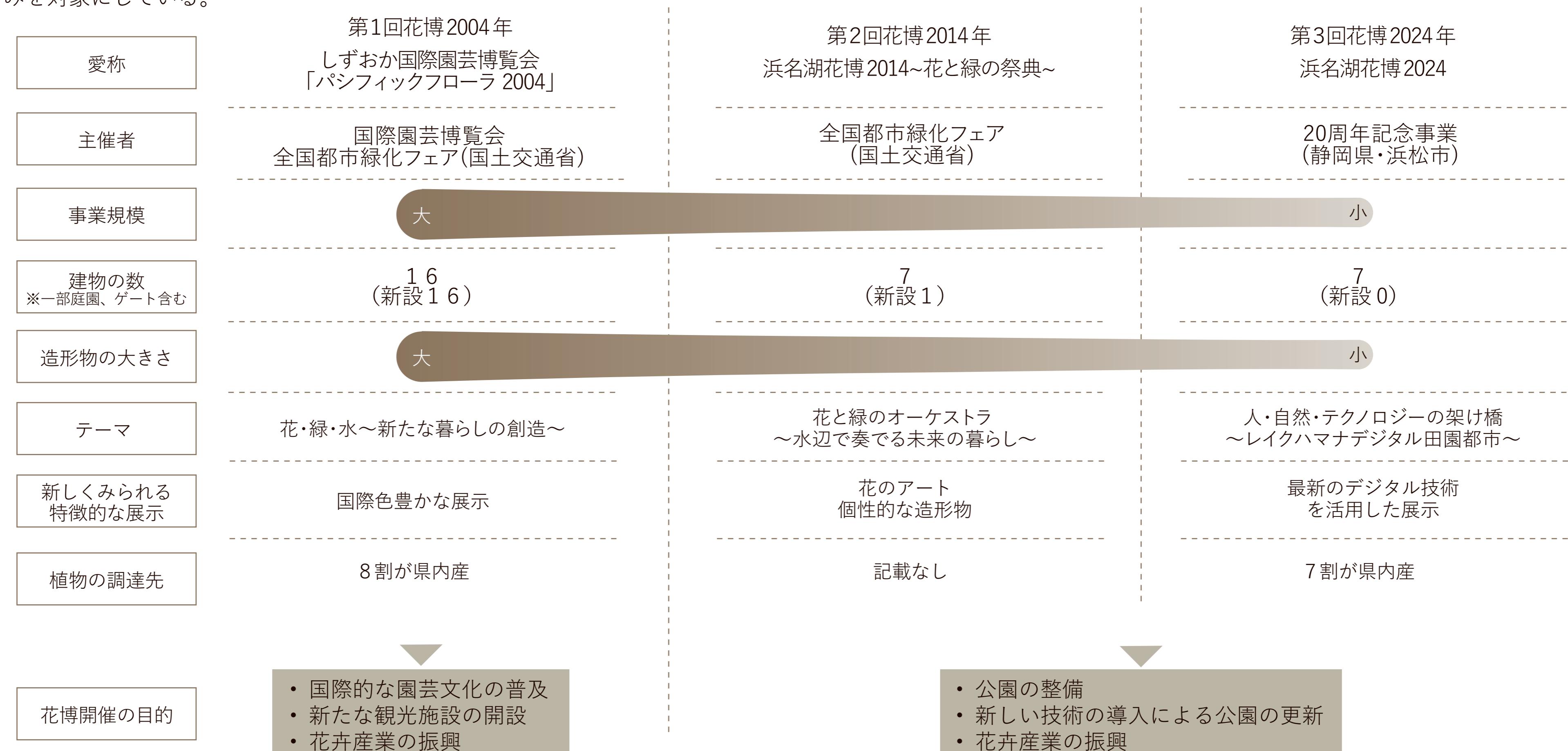
【図9】全国都市緑化フェア来場者の属性

- ・会場の近くから来る人が6～7割。
- ・人口が多い大都市や地方の中心都市で開かれる花博のほうが来場者が多い。

会場周辺の都市の人口が多く、交通アクセスが良いことが多くの来場者を呼び込む要因と考えられる。

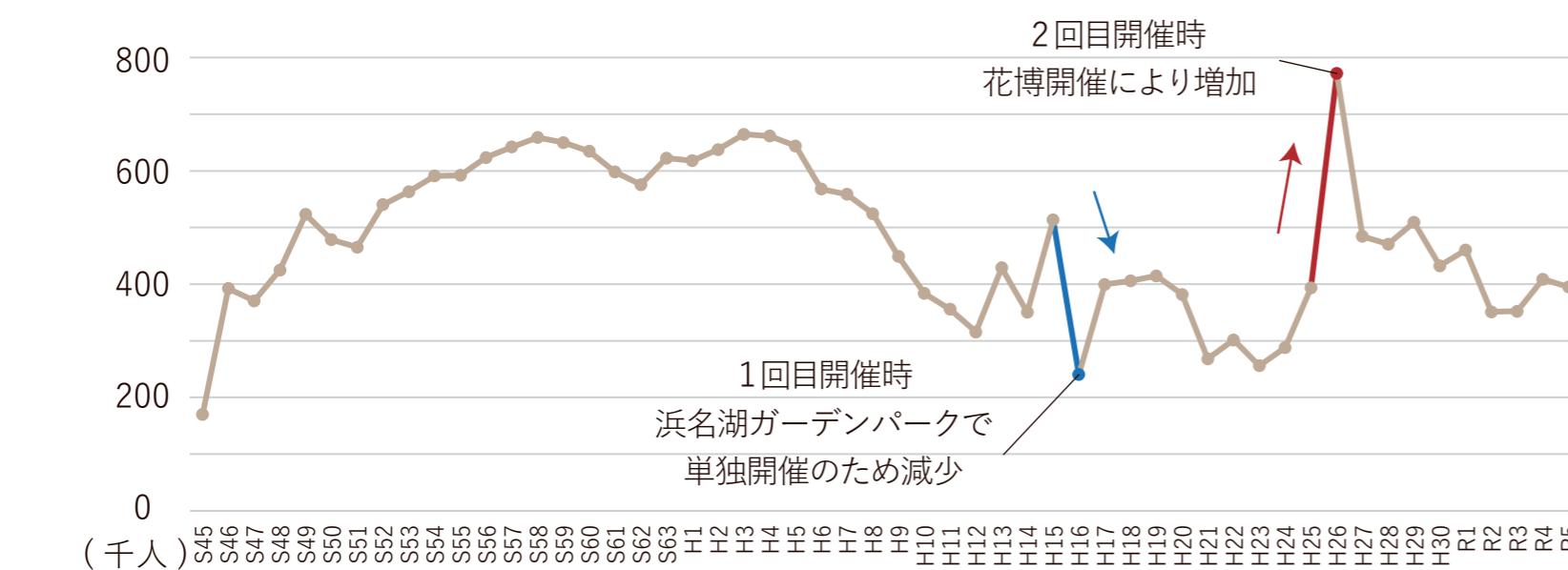
10 浜名湖花博の会場の変化

3回の浜名湖花博について、当時の写真やマップを使い建物や庭園、展示内容を比較した。※比較しやすいよう、浜名湖ガーデンパーク会場のみを対象にしている。



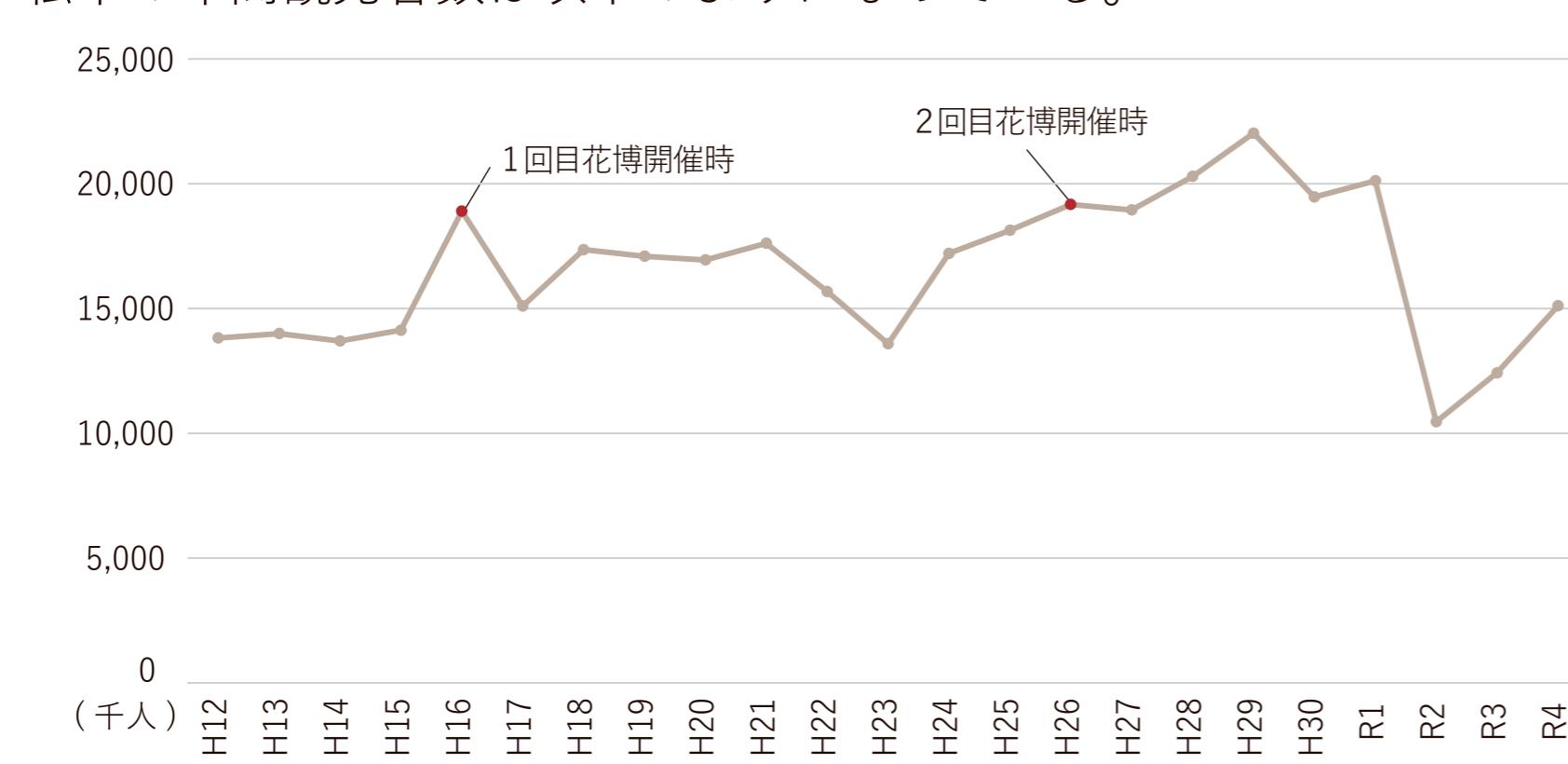
11 周辺観光施設への影響

花博開催によって観光施設への影響はあるのか調べるため、はままつフラワーパークの年間来場者数をグラフ化し、花博の会場の時と会場でないときの来場者数の比較をした。



【図10】はままつフラワーパークの年間来場者数(S45～R5)

浜名湖周辺の観光施設は、静岡統計センター（令和4年の年間客数が千人以上が対象）によると190施設で浜名湖周辺に特に集まっている。浜松市の年間観光客数は以下のようになっている。



【図11】浜松市の年間観光客数(H12～R4)

- ・花博開催は周辺施設の集客に影響を与えると考えられる。
- ・しかし花博開催は浜松市全体の観光でみるとそこまで影響力があるとは言えない。

12 浜名湖花博の継承事業

花博開催後多くの会場では継承イベントを行っており、浜名湖花博も第1回開催の翌年から開催し、2009年で一度終了したものの第2回花博開催の2015年以降再開し、毎年継承イベントを行っている。毎年継承イベントを行っている。浜名湖及び静岡県西部の7つの公園と庭園を中心の会場とし、浜名湖のガーデンツーリズム普及を目的としている。今年2024年も「浜名湖花フェスタ」と称し、花博と同時開催された。



【図12】花博継承イベントの中心会場

- ・浜名湖の新たな観光資源開拓のきっかけとして花博を開催している。
- ・花博のレガシーを長く残すために継承イベントが毎年行われている。



【図13】花博継承事業イベントのチラシ

13まとめ

浜名湖花博が10年毎開催の理由は、全国都市緑化しづおかフェア（浜名湖花博）1回目が盛況で終わったなか、2回目のが偶然10年後の2014年に緑化フェア開催地に選出されたことからそのレガシーを残すために3回目も10年後開催していると考えられる。継続の理由は、浜名湖花博のレガシーを継承するため、観光振興、地場産業の活性化、都市公園整備という複数の目的があり意義があると分かった。よって、今後2034年に4回目の浜名湖花博が開催される可能性も十分にあると考えられる。